

令和4年度

学 力 向 上 プ ラ ン

【後期】



上尾市立大谷中学校

目 次

上尾市立大谷中学校学力向上プラン「グランドデザイン」	1
1 学力調査結果の概要	
(1) 上尾市立小・中学校学力調査 【1～2年生：国語、数学、英語】	2
(2) 全国学力・学習状況調査 【3年生：国語、数学、理科】	3
(3) 埼玉県学力・学習状況調査 【1年生：国語、数学】 【2～3年生：国語、数学、英語】	4
2 学力向上を図る取組	
(1) 各教科の授業における取組 ① 国語科 学力向上プラン ② 社会科 学力向上プラン ③ 数学科 学力向上プラン ④ 理科 学力向上プラン ⑤ 外国語科 学力向上プラン ⑥ 他教科の授業改善 音楽科、美術科、保健体育科、技術・家庭科（技術分野）、 技術・家庭（家庭科分野）、特別の教科 道徳、特別支援学級	6
(2) 教育活動全体を通じた取組 ○本校の特色ある取組 ○家庭教育との連携	18

上尾市立大谷中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

明るく、夢を持ち、たくましく生きる生徒の育成

【目指す生徒】

自ら考え、自ら学ぶ生徒 心豊かに実践する生徒 たくましい生徒

学校課題研究主題

「道徳教育を通じた、相互に理解し信頼し合える生徒の育成」
～学びの場、学び合いの場を大切に
にした授業を通じて～

学力・学習状況調査の結果

R4 全国学力・学習状況調査	R4 埼玉県学力・学習状況調査	R3 上尾市立小・中学校学力調査
<p>国語では、漢字の書き取り、「読むこと」において全国平均を上回った。知識をもとに表現を訂正することや「聞くこと」に関しての正答率が低い。</p> <p>数学では、知識・技能の面で、全国平均よりやや劣っているところがあった。</p> <p>理科では、「粒子」「生命」に関して全国平均を上回っていた。</p>	<p>国語では、1年では県平均をやや上回り、2年・3年では学力の伸びが見られた。</p> <p>数学では、1年は県平均と同程度であるが、2年・3年では、個々の学力差が大きい。</p> <p>外国語では、2年では書く力の不足、3年では読む力が県平均に達していない。</p>	<p>1・2年生ともに、「主体的に学習に取り組む態度」について全国比を上回っていた。</p> <p>国語の「読むこと」、数学の領域別集計について学年が上がるにつれて伸びが見られた。</p>

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<p>教科内の各分野における基本的な用語とその意味の理解及び基本的な処理（計算等）能力を育成する。</p>	<p>聞く・読む・書くの必要な資質・能力を基に、課題を解決する手段を自ら考えとともに、他に伝える力を育成する。</p>	<p>本時の学習を振り返り、「できるようになったこと」や「わかったこと」などの成果をまとめる力を育成する。</p>

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<p>授業の開始時に、本時の「課題」を提示する。また、基礎学力の定着を図るため、漢字や計算など、本時の授業内容と関連させた問題を適宜取り入れ、知識・技能の習得を図る。また、積極的にICTを活用した協働的な学習を取り入れる。</p>	<p>思考力・判断力・表現力等を高める指導のため、知識・技能の活用を意図した言語活動を授業の中で設定する。学習課題に対し、自らの体験や経験を基盤として習得した知識・技能と、他者からの情報とを合わせて活用しながら考え、それを解決するために表現する力を育成する。</p>	<p>授業開始時の学習の「課題」に対し、終末部分で「ふりかえりカード」や「何が分かったか」を振り返る時間を設ける。生徒の振り返りに対して、適切なコメントをするなどして評価する。</p>

本校の特色ある取組

学びの場 ②道徳教育の推進 ③新聞まとめの取組
④大谷中授業前三原則 ⑤無言清掃
学び合いの場 ①褒める教育の推進 ⑥ICT推進

家庭教育との連携

①家庭学習の取組
 ②進路講演会、ふれあい講演会等の実施
 ③每学期1回の全校授業参観の実施
 ④家庭訪問・三者面談の実施

1 学力調査結果の概要

(1) 上尾市立小・中学校学力調査(令和4年1月実施)

1年(令和4年度2年)【国語】

項目	項目	
考察	領域内容別の結果から、「主体的に取り組む態度」については全国比を大きく上回っている。また、「知識・技能」に関しても全国比を上回っており、毎時間漢字の書き取りに取り組んでいることが関連していると考えられる。一方で、思考・判断・表現については全国比からマイナスの数値となった。特に読むことに課題があり、目的に応じて読んだり書いたりすることを苦手としていることがわかった。	
課題	(課題) ・目的に応じて読んだり、書いたりすること。	(要因分析) ・目的に応じて文章を読むことが苦手である。 ・内容の一部を捉えることができているが、目的に応じて文章を書くための内容理解、整理する力が乏しい。

1年(令和4年度2年)【数学】

項目	項目	
考察	「知識・技能」「思考・判断・表現」共に全国平均を下回っている。それに対して主体的に学習に取り組む態度は全国平均を大きく上回っている。正負の数の計算、文字式の計算1次方程式を解くことなどの基本的な計算ができていない。	
課題	(課題) 基本的な計算をすること。	(要因分析) ・基本的な計算技能が定着されていない。また、授業中は解けるがその後の定着に至っていない。

1年(令和4年度2年)【英語】

項目	項目	
考察	観点別では「主体的に学習に取り組む態度」は全国平均を上回っている。しかし、「思考・判断・表現」および「知識・技能」はやや及ばなかった。特に「書くこと」と「話すこと」に課題があり、既習の英語を用いて自分の考えや意見を書いたり表現したりすることを苦手とする生徒が多くいることが現れている。	
課題	(課題) ・既習の英語を用いて自分の考えを「書いたり」「話したり」すること。	(要因分析) ・コミュニケーション活動が苦手な生徒が多い。 ・まとまった文章を英語で書く力が不足している。 ・基礎的な英文を組み立てられない。

2年(令和4年度3年)【国語】

項目	項目	
考察	領域内容別の結果から、全ての領域で全国比を上回っている。特に、「書くこと」に関しては、全国正答率を5点以上も上回っている。これは、単元の特性に応じて課題を設定し、まとめることを通年で取り組んだことと関連している。	
課題	(課題) ・目的に応じて文章を読むこと。 ・内容を整理してわかりやすい文章を書くこと。	(要因分析) ・目的に応じて文章を読むことが苦手である。 ・内容の一部を捉えることができているが、目的に応じて文章を書くための内容理解、整理する力が乏しい。

2年(令和4年度3年)【数学】

項目	項目	
考察	観点別ではすべての項目で全国平均を上回っている。文字式の計算、1次関数のグラフを式に表すことのみ全国平均を下回っている。	
課題	(課題) ・文字式の計算、1次関数のグラフを式に表すこと。	(要因分析) ・基礎・基本の定着の時間が取れていない。

2年(令和4年度3年)【英語】

項目	項目	
考察	「書くこと」「話すこと」が県の平均を下回っている。 領域内容別集計においては、「メモ等から情報を読み取り問題に答える」「英文を聞き取り単語を書くこと」「英文の意味を考えて続きを書くこと」が特に全国平均を下回っている。	
課題	(課題) ・単語が定着していない。 ・文章で表現する力が乏しい。	(要因分析) ・単語の習得が不足している。 ・文章を作成する力が乏しい。

(2)全国学力・学習状況調査(令和4年4月実施)

国語

考察(問題と結果の分析)

- ・漢字の書き取り、「読むこと」においては全国平均を上回っていた。
- ・知識をもとに表現を訂正することや「聞くこと」に関しての正答率が低い。

課題の要因分析

- ・文章を作成し推敲して表現する機会が少なかった。
- ・「話す・聞く」活動を通して、伝え合うことが不足していた。



各学年における重点指導事項

3年	・文章を作成し、推敲して表現を訂正する力を養う。
2年	・文法事項を理解し、文章表現に生かす力を養う。
1年	・「話す・聞く」活動を積極的に展開し、伝え合う力を養う。

数学

考察(問題と結果の分析)

- ・知識・技能の面で、全国平均よりやや劣っているところがある。
- ・素因数分解や変化の割合などの、事柄の意味を理解して答える問題の無回答率が高く知識として身につけさせることが必要である。
- ・事象を説明する問題が全国平均よりやや劣る傾向があるので、考えを表現する力をはぐぐむ必要がある。

課題の要因分析

式と計算、図形に関して、基礎・基本を徹底することが不足していた。



各学年における重点指導事項

3年	・各単元を関連づけて、考えて表現させることができるようにする。
2年	・文字を使った説明などで、考えを表現できるようにさせる。
1年	・正の数負の数の計算などの基本的な計算ができるように徹底する。 ・図形等の体積、表面積などの学習内容を定着させる。

理科

考察(問題と結果の分析)

- ・領域毎の「粒子」「生命」に関して全国平均を上回っていた。
- ・「エネルギー」に関しては県・全国平均ともに-5ポイントであった。
- ・実験・観察において、生徒自ら考察を記述できるように指導の工夫・改善を行ったため、記述式において県・全国平均ともに2ポイント上回った。

課題の要因分析

「粒子」「エネルギー」に関して、抽象的に考える学習内容の定着が不足していた。



各学年における重点指導事項

3年	<ul style="list-style-type: none">・「エネルギー」に関して、化学分野や物理分野と関連させて考えさせる。・「エネルギー」概念を身に付け、身近な事象と関連付けられる力を養う。
2年	<ul style="list-style-type: none">・「粒子」概念を多面的な学習を通して、思考・表現できる力を身につかせる。・環境について、科学的思考力も活用して地球規模で考え、理解させる。
1年	<ul style="list-style-type: none">・「地球」に関して、その成り立ちや形成状況について、観察を通して理解させる。・「粒子」概念を科学の基礎・基本を軸に抽象的概念を論理的力を身に付けさせる。

(3) 埼玉県学力・学習状況調査(令和4年5月実施)

国語

学年	項目
1年	<p>考察(現状分析・実態) 学力の伸びは、県と比較してやや上回っている。領域別の正答率の県との比較では、「言葉の特徴や使い方」、「情報の扱い方、わが国の言語文化」は平均値であるが、「話すこと・聞くこと・書くこと」、「読むこと」については県平均を上回っており、学力が定着しつつあることがうかがえる。</p>
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて) ・学習した言語に関する知識を、様々な場面で活用できる語彙力として伸ばすことを目指した短文作成などに取り組む時間を増やしていく。 ・情報を活用して考察したことを文章を作成する演習に生かしていくための時間を確保していく。 ・古文の教材を通して、伝統的な言語文化に対する興味や関心を引き出していく。</p>
2年	<p>生徒の伸びの傾向 全体的には伸びている傾向にある。しかし、短答式、記述式の問題に課題が見られる。</p>
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて) ・漢字の読み書き、文法事項においては丁寧に学習してきたが、定着が図れていない。単元が異なっているも複合的に学習を展開していく必要がある。 ・自分の考えを広げ、深めるための言語活動を継続して展開していく。</p>
3年	<p>生徒の伸びの傾向 全体的には伸びている傾向にある。特に、「思考・判断・表現」における登場人物の読み取りに関してはよくできている。教材を通して丁寧に読み取ってきた成果であると考えられる。</p>
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて) ・文法事項の定着を図る。 ・考えたことが言葉に表出できる場面を増やす。 ・自分の考えを広げ、深めるための言語活動を継続して展開していく。</p>

数学

学年	項目
1年	<p>考察(現状分析・実態) 教科の領域等別正答率において、ア:数と計算やイ:図形、ウ:変化と関係は、県と比較してやや上回っている。エ:データの活用においては、県をやや下回っている。</p>
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて) ・エ:データの活用を中心に基礎・基本の徹底を行える演習問題やグループ学習を活用し、学習内容について理解を深めさせる。</p>
2年	<p>生徒の伸びの傾向 埼玉県の平均よりも大きく下回っている。全体的に1年次より学力を伸ばした生徒の割合は多いが、中間層の上位者の学力の伸びが課題である。また、昨年度同様基礎の定着ができていない生徒が多いことが課題である。</p>
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて) ・基礎基本の定着を図るために少人数による授業を実施したり、演習問題を多く取り入れる。 ・テスト前補習など、生徒の苦手の把握に努め、授業改善につなげていく。</p>
3年	<p>生徒の伸びの傾向 全体的には学力を伸ばしている傾向にあるが、計算などの無回答が多く、二極化してしまっている。その結果、方程式や連立方程式の正答率が県平均より少し下回る結果になっている。その一方で、数学が得意とする生徒が増えてきていることより、主体的に取り組む態度が育ってきている。</p>
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて) ・数学を苦手とする生徒を把握し、サポートする必要がある。 ・主体的に取り組む態度が育ってきていることより、段階的に問題演習を増やしていくことが必要である。 ・思考・判断・表現をのばすために、生徒がより興味をひく問題、授業の方法を考えなければならない。</p>

英語

学年	項目
2年	<p>考察(現状分析・実態) 教科の領域別正答率では、聞くこと、読むことは正答率が6割程度であるのに対し、書くことが4割程度という結果になっている。やはり、生徒のインプットする力や問題の正誤を見る力より、自ら表現する力が足りていないと考えられる。現状でも、一から自分で意見を考える思考力に課題があり、自分の考えを表現することにとどり着かない。</p> <p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて) 学力向上プランにも掲げている継続的な音読指導は徹底して行っていることや、授業内で題材に対する英問英答、生徒とのインタラクションを取りつつ進めてきたため、理解する力はついたが、アウトプットの活動については教師対生徒での取組が多かったため、生徒間でも自分の意見をもっと表現できるように取り組む必要がある。</p>
3年	<p>生徒の伸びの傾向 領域別正答率では 聞くことの正答率は約5割だが県平均にやや達していない。読むことは約6割の正答率だが県平均には及ばない。書くことは正答率約4割だが県平均を上回った。音読はルーティーンとして毎時行ってきたが、全員が取り組めていなかった。音響教材の使用頻度も不足していた。</p> <p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて) 音読、単語や基本文の反復練習、ALTとのコミュニケーションなど基本的な取組は継続しつつ、リスニングやアウトプット活動を多く取り入れ、耳と口を使った活動により慣れさせる。同時に書く力もより向上を目指し、既習の英語を用いて簡単な英文を即時に書けるような活動を毎時行っていく。</p>

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組

① 国語科 学力向上プラン

重点的に伸ばす学力

- ・ 目的に応じて文章を読んだり、まとめたりする「読解力」の育成

各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業開始時に漢字テストを毎時間継続して実施する。 ・ 文法の学習では、練習問題による学習内容の確認を繰り返し行う。 ・ 語句の意味に注意して表現の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・ 登場人物の心情を描写と関連させ、読解力の向上を図る。 ・ 話の中心部分と付加的な部分や事実と意見の違いに気づかせ、読解力の向上を図る。 ・ 古典の学習では繰り返し音読させ、古典の世界に親しませる。 ・ ICT機器を活用し、積極的な授業の工夫や改善を通して、生徒の関心を高める。 ・ 授業開始時に本時の目標を提示し、終末部分で学習内容を振り返る。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業開始時に漢字テストを毎時間継続して実施する。 ・ 文法の学習では、練習問題による学習内容の確認を丁寧に行う。 ・ 短作文や説明文の要旨をまとめる活動により、語彙力を活かして、表現力を育む。 ・ 登場人物の変容と場面の展開を関連させ、読解力の向上を図る。 ・ 事実と意見の違いや筆者の考えと根拠の関係を理解し、読解力の向上を図る。 ・ 目的に応じて必要な情報に着目して内容を要約する。 ・ 古典の学習では基本的事項の確認を繰り返し、生徒の意欲を喚起する。 ・ 自己の考えを書き留める活動を多く設け、自分の考えを深めさせる。 ・ ICT機器を活用し、積極的な授業の工夫や改善を通して、生徒の関心を高める。 ・ 授業開始時に本時の目標を提示し、終末部分で学習内容を確認する。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業開始時に漢字テストを毎時間継続して実施する。 ・ 場面の展開や情景描写と人物の心情の関連から読解力の向上を図る。 ・ 事実と意見を読み分け、筆者の考えとその根拠を的確に捉え、読解力の向上を図る。 ・ 文章を批判的に読みながら、ものの見方や考え方について考える。 ・ 様々な文章形態で書く活動を多く設け、表現力の向上を図る。 ・ 読み手や聞き手を意識して、論理的に説明する活動を通して表現力を養う。 ・ 古文の基礎的事項を繰り返し確認し、古典文学学習への意欲を喚起する。 ・ 語彙力を活かして、根拠を明らかにした説得力のある文章を書く力を育む。 ・ ICT機器を活用し、積極的な授業の工夫や改善を通して、生徒の関心を高める。 ・ 授業開始時に本時の目標を提示し、終末部分で学習内容を確認する。 	

A・・・取組の効果が十分に見られた

B・・・今後も課題として取り組む

C・・・取組を見直す

② 社会科 学力向上プラン

重点的に伸ばす学力

- ・我が国の国土と歴史に対する基礎的・基本的な知識・技能
- ・資料を活用し、課題を解決する思考力・判断力

各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く・書く・話すなどの基礎的な授業規律を確立させる。 ・google Jamboard等のICTを活用し、興味・関心を抱かせる授業の工夫をする。 ・毎時間、基礎・基本の復習問題を、ゲーム等を通して行う。 ・基礎的用語定着のための小テスト（復習）を実施する。 ・資料を読み取り、他者と思考するグループ活動を定期的に設け、深い学びにつなげる。 ・単元を貫く課題を設定し、見通しをもたせた授業展開を行う。 ・学習内容と自分の生活との関わりを考える時間を設ける。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間デジタル教科書を活用するほか、写真など視聴覚教材を活用し、学習に対する関心を高める（ICT機器の有効活用）。 ・単元を貫く課題を設定し、見通しをもたせた授業展開を行う。 ・毎時間、基礎・基本の復習問題を、ゲーム等を通して行う。 ・スクールタクト等を用いて、協働的な学びを展開する。 ・資料を読み取り、思考ツールで重要な要素を整理する活動を行う。 ・単元の終わりにこれまでの学習内容を用いて課題を解決する時間を設け、概念的知識の習得をめざす。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間デジタル教科書を活用するほか、写真、動画など視聴覚教材を活用し、学習に対する関心を高め、学習内容に対して深い考察をさせる時間を増やす（ICT機器の有効活用）。 ・毎時間、基礎・基本の復習問題を、ゲーム等を通して行う。 ・社会的な見方・考え方を働かせる問いについて考える時間を設ける。 ・課題に対しての自分の意見を考え、発表したり、意見交換したりするディベートなどの機会を設け、言語活動の充実を図ることで深い学びにつなげる。 ・授業開始時の本時の課題に対し、終末部分で「何が分かったか」を振り返る時間を取り入れる。 	

- A・・・取組の効果が十分に見られた
- B・・・今後も課題として取り組む
- C・・・取組を見直す

③ 数学科 学力向上プラン

重点的に伸ばす学力

- ・ 事象を数学的に捉え、考える力
- ・ 自分の考えを理由を付けて説明できる力

各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時間内で理解させる。 ・ 家庭学習を充実させるための課題、練習プリントの配布 ・ ペア学習やグループ学習を取り入れ、他の生徒と活動する機会を作り、学び合いをさせる。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業開始に本時の目標を示す（「何をできるようになる」等）。 ・ 家庭学習を充実させるための課題、練習プリントの配布 ・ 「自分で考える→ペア・グループで発表する→全体で共有し合う」の一連の流れを基本とし、話し合い活動をさせる。 ・ 習熟度授業を行い、習熟度に応じ、基礎コースは知識・技能などの定着を標準コースは知識・技能の定着に加え、発展的な問題にも取り組んでいく。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業開始に本時の目標を示す（「何をできるようになる」等）。 ・ 家庭学習を充実させるための課題、練習プリントの配布 ・ 「自分で考える→ペア・グループで発表する→全体で共有し合う」の一連の流れを基本とし、話し合い活動をさせる。 ・ ITでの授業を行い、演習の時間を多く設定し、個に応じた授業を行う。 ・ 定期テストを入試問題の形式に近づけることにより、定期テストから発展的な問題に取り組む意識を高める。 	

A・・・取組の効果が十分に見られた

B・・・今後も課題として取り組む

C・・・取組を見直す

④ 理 科 学 力 向 上 プ ラ ン

重点的に伸ばす学力

- ・身近な事象に注目して、理科への興味・関心をもって授業に取り組む力の育成。
- ・観察、実験などの基本的な技能や態度を身に付けさせ、安全に事故なく実験する力の育成。

各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に見られる現象の不思議からの導入で、「なぜそうなるのか」を科学的な視点から説明できるようにする。 ・大型モニターや顕微鏡カメラ、NHK for school、デジタル教科書等のICTを活用することで、興味・関心を持たせてわかりやすい授業の展開をし、知識・技能を効果的に定着させる。 ・パフォーマンステストを実施し、全員の実験に必要な技能の定着を図る。 ・観察・実験レポートの作成を通して、結果から班員と話し合うことで理解を深め、考察、表現する力を培う。 ・「テスト直しレポート」を作成させることで、問題に対し解説させ、「思考の過程」を自分の言葉で表現させる。 ・学習環境を整備し、個々で実験器具を扱えるようにすることで、主体的に実験に取り組めるようにする。 ・課題の目標に対し、終末部分で「何が分かったか」を振り返る時間を取り入れる。 ・その単元学習が日常生活や社会とどのように関連しているかを、具体例を示していくことで、科学の社会的重要性を理解する。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に見られる現象の不思議からの導入で、「なぜそうなるのか」を科学的な視点から説明できるようにする。 ・大型モニターや顕微鏡カメラ、NHK for school、デジタル教科書等のICTを活用することで、興味・関心を持たせてわかりやすい授業の展開をし、知識・技能を効果的に定着させる。 ・小テストの実施をし、基本的な知識を定着させる。 ・パフォーマンステストを実施し、全員の実験に必要な技能の定着を図る。 ・「観察・実験レポート」の作成を通して、結果から班員と話し合うことで理解を深め、考察、表現する力を培う。 ・「テスト直しレポート」を作成させることで、問題に対し解説させ、「思考の過程」を自分の言葉で表現させる。 ・課題の目標に対し、終末部分で「何が分かったか」を振り返る時間を取り入れる。 ・その単元学習が日常生活や社会とどのように関連しているかを、具体例を示していくことで、科学の社会的重要性を理解する。 ・ICT端末を使って、インターネットから情報を集め、表計算ソフトや文章作成ソフトを使ってレポートを作成させる。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に見られる現象の不思議からの導入で、「なぜそうなるのか」を科学的な視点から説明できるようにする。 ・大型モニターや顕微鏡カメラ、NHK for school、デジタル教科書等のICTを活用することで、興味・関心を持たせてわかりやすい授業の展開をし、知識・技能を効果的に定着させる。 ・小テストを実施し、基本的な知識を定着させる。 ・実験目的を明確にすることで、自ら考え、見通しを持った実験・観察を行えるよう、事前に何を調べる実験かを明確にしておく。 ・観察・実験レポートの作成を通して、結果から班員と話し合うことで理解を深め、考察、表現する力を培う。 ・課題の目標に対し、終末部分で「何が分かったか」を振り返る時間を取り入れる。 ・その単元学習が日常生活や社会とどのように関連しているかを、具体例を示していくことで、科学の社会的重要性を理解する。 ・ICT端末を使って小テストを行い、基礎・基本の定着を行う。また、インターネットから情報を集め、表計算ソフトや文章作成ソフトを使ってレポートを作成させる。 	

- A・・・取組の効果が十分に見られた
- B・・・今後も課題として取り組む
- C・・・取組を見直す

⑤ 外国語科 学力向上プラン

重点的に伸ばす学力

- ・基礎・基本の定着（4技能を総合的に育成する中で）
- ・まとまった文章を読み、内容を読み取る能力
- ・既習事項を用いて自分の意見や考えを英語で話したり、書いたりして表現する能力

各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・帯活動（ペアでの英会話とそこで言ったことを書く活動）で、各活動の重要な表現にくり返し触れさせ定着を図る。 ・大型モニタで新出文法の導入、板書でまとめ、口頭練習、口にしたことを書くことで、各活動につながりを持たせ、基礎・基本の定着を図る。 ・音読を重ねることで、発話に必要な表現をアウトプットしやすくするとともに、初見の文章でも読み進めることができるようにする。 ・ペア・グループでの学習活動や発表を毎時取り入れ、教え合いと、積極的な発話ができる雰囲気醸成する。 ・授業開始時の本時の目標に対し、終末部分で「何が分かったか」を振り返る時間を取り入れる。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーティーン活動の充実（日々のスモールトーク、コミュニケーション活動、単語や基本文練習等）を図る。 ・毎時間音読を重ねることで、単語のアクセントや発話に必要な表現をアウトプットしやすくするとともに、初見の文章でも読み進めることができるようにする。 ・言ったことを書く、書いたことを言うなど、各活動につながりを持たせ、英語で自己を表現する力と喜びを体現させる。 ・ペア、グループ活動を取り入れ思考する時間を確保すると共に、助け合いの姿勢を育てる（距離を保つ、大きな声は出さない）。 ・授業開始時の本時の目標に対し、終末時に、「何が分かったか」を振り返る時間を取り入れる。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・帯活動で音読、単語及びキーセンテンスの反復練習を毎時行う。 ・ALTとのコミュニケーション活動を習慣化する。 ・音読する際内容を考えながら、目的意識を持って英文を読ませる。 ・読み取れた内容を相手と説明し合う時間を設けることで、情報を補い、より深い内容理解につなげる。 ・言語活動と言語材料の指導・練習の時間とをスパイラルに行い、活動を複数回行うことで、自分のことを表現することに慣れさせる。 ・英作文練習を定期的に行い、思いを英文で表現できるスキルアップを図る。 	

- A・・・取組の効果が十分に見られた
- B・・・今後も課題として取り組む
- C・・・取組を見直す

⑥ 他教科の授業改善

○音楽科

1年	<p>《身に付させる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な基礎的技能を習得し、音楽によって生活を明るく豊かなものにしようとする態度を養う。楽しみ、表現する <p>《具体的な取組》</p> <p>○知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間10分程度の発声練習による基礎的な呼吸法と歌唱法の習得を図る。 <p>○思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、課題に対する各自の方策を考え、実践させ、振り返る活動を通して、自ら問題解決する力を身に付けさせる。 <p>○学びに向かう力・人間性等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の楽しさを味わわせるために、幅広いジャンルに取り組む。
2年	<p>《身に付させる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫を生かした表現技能を生かし、さらに曲想や音楽構造について理解を深め音に親しむ態度を養う。深め、感じる <p>《具体的な取組》</p> <p>○知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用と楽譜へのメモカ、PDCAサイクルを生かした振り返りカードの活用。 ・楽曲分析を行い、楽曲のより深い理解と表現方法を自ら考え実践する活動を行う。 <p>○思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現活動では、強弱や詩の解釈を行い、聴衆へ届ける表現力を身に付ける。 <p>○学びに向かう力・人間性等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・唱法奏法の工夫をすることで、自ら心地のよい音色を奏でる活動を行う。
3年	<p>《身に付させる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫を生かした表現技能を生かし、音楽を評価しながら表現をすることで美的情操を培う。自ら、感動する <p>《具体的な取組》</p> <p>○知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用と楽譜へのメモカ、PDCAサイクルを生かした振り返りカードの活用。 ・楽曲分析を行い、楽曲のより深い理解と表現方法を自ら考え実践する活動を行う。 <p>○思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現活動では、曲にふさわしい音楽表現を自ら考え、実践する活動を行う。 ・鑑賞時には、根拠を持って批評し、美しさを味わい言葉で表現するようにする。 <p>○学びに向かう力・人間性等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら音楽表現を通して、他者とかかわりをもち音の美しさや感性を味わえるように、生徒自身の意見を実践し、高め合う活動を取り入れる。

○美術科

1年

《身に付けさせる学力》

- ・楽しく美術の活動に取り組み、色彩、形、材料などで自らの思いや意図を表現するのに必要な基礎となる技能を身につけさせる。
- ・創造的な良さを感じ取り、作者の心情や表現の意図、工夫などについて考える能力を身につけさせる。

《具体的な取組》

- ・短時間教材を取り入れ、多くの課題を制作することで知識や経験を深めていく。
- ・制作予定や振り返りが記入できるプリントを準備する。
- ・ICTの活用。カメラを使用しながら実践、説明をして視覚的に分かりやすく伝える。
- ・ICT端末の利用。制作に必要な情報を調べ、活用させる時間を確保する。

2年

《身に付けさせる学力》

- ・主題を基に想像力を働かせて、表現方法や今まで培ってきた技法を工夫しながら、主体的に見通しを持って表現する能力を身につけさせる。
- ・創造的な良さを感じ取り、作者の心情や表現の意図、工夫などについて考える能力を身につけさせる。

《具体的な取組》

- ・毎授業ごとに自己評価や振り返りを行う。
- ・作品の制作途中で、発表の場を設ける。また、互いの作品を鑑賞する機会を設けることで多様な表現方法があることを理解させ、鑑賞の充実を図る。
- ・1つの材料でも多様な表現方法や使用方法があることを体験させる。
- ・家庭で取り組める課題を出し、次の授業への見通しを持たせる。
- ・ICT端末の利用。制作に必要な情報を調べ、活用させる時間を確保する。

3年

《身に付けさせる学力》

- ・主題を基に想像力を働かせて、表現方法や今まで培ってきた技法を工夫しながら、主体的に見通しを持って表現する能力を身につけさせる。
- ・日本の伝統文化や美術作品に触れ、良さや美しさを感じ取り、美術を愛好する心情を深める。

《具体的な取組》

- ・毎授業ごとに自己評価や振り返りを行う。
- ・ICTを活用し、技法や説明を視覚的に伝わるようにする。
- ・ICT端末の利用。制作に必要な情報を調べ、活用させる時間を確保する。
- ・日本の伝統についての学習を行い、修学旅行（京都・奈良）での学習と関連させる。
- ・家庭で取り組める課題を出し、次の授業への見通しを持たせる。

○保健体育科

1年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none">・ 学び方の基礎・基本、各運動領域の特性の理解、集団での行動様式 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none">・ 授業の流れや目標を明示し、毎時間取り組むことで意識付けを行う。・ リーダーを中心に集団行動を徹底し、授業時のルールやマナーの向上を図る。・ 掲示資料や学習資料を工夫し、運動の特性をわかりやすく伝える工夫を行う。・ 授業に興味や関心をもって参加できるように、活動の場やICTの活用を積極的に取り入れる等の工夫をする。・ 授業の終わりに振り返りを学習カードに記入させ、反省と課題の確認を行い、発表の場を設ける。
2年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none">・ 各運動領域の特性の理解、技能の向上 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none">・ ICT機器を活用して視覚からより具体的に課題を提示し、理解させる。・ 学習カードを活用し、毎時間の課題を明らかにさせるとともに、自己評価、相互評価の充実を図り次時につなげる。・ ペア学習、グループ学習の場を設定して互いに教え合い、言語活動を活発に行う中で課題解決を目指す工夫をさせる。・ 課題や振り返りなどを発表する場面を設け、個やグループで取り組むべき内容を具体的にする。・ リーダーを育成し、生徒自ら考え、取り組む体制をつくる。
3年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none">・ 課題解決に向けて最後まで粘り強く活動する力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none">・ ICT機器を活用して視覚からより具体的に課題を発見させ、解決するための手立てを考えさせる。・ 学習カードを活用し、毎時間の課題を明らかにさせるとともに、自己評価、相互評価の充実を図り、発表する場面を設けるなどし、次時の活動へとつなげる。・ ペア学習、グループ学習を多く取り入れ、生徒が主体的・意欲的に課題解決に取り組めるようにする。・ 課題解決のための手がかりとして場の設定の工夫や資料の工夫を行う。・ 授業の終わりに振り返りカードを記入・発表させ、反省と課題の確認を行う。

○技術・家庭科（技術分野）

1 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料と加工の技術の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な活動を通して、生活や社会の中から課題を設定し解決する力の習得を目指す。 ・生物育成の技術の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている生物育成の技術について問題を解決する力の習得を目指す。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習や観察・実験、調査等の具体的な活動を通して学習する。 ・グループ活動を取り入れ、課題解決型の能動的学習の取組をする。 ・少人数授業を実施し、多くの体験的な授業を取り入れ、学び合いの場面を設ける。 ・ICT機器を活用して視覚から考えさせる。 ・授業の終わりに振り返りカードを記入させ、反省と課題の確認を行う。
2 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー変換の技術の見方・考え方を働かせ実践的・体験的な活動を通して生活や社会で利用されているエネルギー変換の技術について問題を解決する力の習得を目指す。 ・情報に関する技術の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な活動を通して、生活や社会の中からの課題の設定と解決する力の習得を目指す。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習や観察・実験、調査等の具体的な活動を通して学習する。 ・グループ活動を取り入れ、課題解決型の能動的学習の取組をする。 ・ICT機器を活用して視覚から考えさせる。 ・グループワークや話し合い活動を多く取り入れ、課題解決型の能動的学習の取組をする。 ・授業の終わりに振り返りカードを記入させ、反省と課題の確認を行う。
3 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センサなどの入力装置からアクチュエータ等の出力装置までの信号の伝達経路や変換の習得を目指す。 ・適切なプログラミング言語を用いて、安全・適切に順次、分岐、反復という情報処理の手順や構造の入力とプログラムの編集・保存、動作の確認、デバッグ等をする力の育成をする。 ・生物育成の技術の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている生物育成の技術について問題を解決する力の習得を目指す。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習や観察・実験、調査等の具体的な活動を通して学習する。 ・グループ活動を取り入れ、課題解決型の能動的学習の取組をする。 ・ICT機器を活用して視覚から考えさせる。 ・グループワークや話し合い活動を多く取り入れ、課題解決型の能動的学習の取組をする。 ・授業の終わりに振り返りカードを記入させ、反省と課題の確認を行う。

○技術・家庭科（家庭分野）

1年

- 《身に付けさせる学力》
- ・生活の営みに係わる見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて生活を工夫し、創造する資質・能力の育成をする。
- 《具体的な取組》
- ・小中連携で、知識及び技能の確認をして授業を進める。
 - ・授業の開始時に本時の見通し（「何を身に付けさせたいか」）を提示して、意欲を持たせる。
 - ・ワークシートを使い、学習活動を進める事で、基礎基本となる知識を確認し、授業の流れを把握して進めるようにする。
 - ・生徒同士の協働作業、教員との対話等を通して、自己の考えを広げ深めるための話し合い学習を取り入れ、課題を解決する力を高める。
 - ・学習の振り返りでは本時の目標に対して「何がわかったか」「生活に繋げていきたいこと」を自分のことばで評価させる。
 - ・長期休業中の課題として、家庭や地域の中から問題点を見つけ、その課題設定をし、解決策をまとめる取組をする。
 - ・ICTを活用することで、生徒の思考の過程や結果を可視化したり、素早く情報を収集したりと学習の効果的な実施を目指す。

2年

- 《身に付けさせる学力》
- ・生活の営みに係わる見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて生活を工夫し、創造する資質・能力の育成をする。
- 《具体的な取組》
- ・授業の開始時に本時の見通し（「何を身に付けさせたいか」）を提示して、意欲を持たせる。
 - ・感染対策を配慮し、実習や実験、の体験的学習を通して、作ることの楽しさや、完成の楽しさを通して喜びを味わう事で基本的な技術を習得させる。
 - ・生徒同士の協働作業、教員との対話等を通して、自己の考えを広げ深めるための話し合い学習を取り入れ、課題を解決する力を高める。
 - ・学習の振り返りでは本時の目標に対して「何がわかったか」「生活に繋げていきたいこと」を自分のことばで評価させる
 - ・長期休業中の課題として、家庭や地域の中から問題点を見つけ、その課題設定をし、解決策をまとめる取組をする。
 - ・ICTを活用することで、生徒の思考の過程や結果を可視化したり、素早く情報を収集したりと学習の効果的な実施を目指す。

3年

- 《身に付けさせる学力》
- ・生活の営みに係わる見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて生活を工夫し、創造する資質・能力の育成をする。
- 《具体的な取組》
- ・授業の開始時に本時の見通し（「何を身に付けさせたいか」）を提示して、意欲を持たせる。
 - ・ふれあい体験学習は感染対策を配慮して視聴覚教材の活用やロールプレイングの学習活動を通して興味をわかせる工夫をする。
 - ・生徒同士の協働作業、教員との対話等を通して、自己の考えを広げ深めるための話し合い学習を取り入れ、主体的に問題解決をしていく態度を身に付けさせる。
 - ・学習の振り返りでは本時の目標に対して「何がわかったか」「生活に繋げていきたいこと」を自分のことばで評価させる
 - ・ICTを活用することで、生徒の思考の過程や結果を可視化したり、素早く情報を収集したりと学習の効果的な実施を目指す。

○特別の教科 道徳

1年	<p>《身に付けさせる力》 道徳の時間においては、生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の体験やそれに伴う考え方や感じ方を基に自分なりの考えをもち、友達との話し合いを通して道徳的価値のよさや難しさを確かめるような問題解決的な学習を取り入れる。・ペアや少人数グループなどでの学習を取り入れて、道徳的価値のよさや難しさを確かめるような工夫をする。・その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習をする。・体験的行為などを通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようにする。
2年	<p>《身に付けさせる力》 道徳の時間においては、生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の体験やそれに伴う考え方や感じ方を基に自分なりの考えをもち、友達との話し合いを通して道徳的価値のよさや難しさを確かめるような問題解決的な学習を取り入れる。・ペアや少人数グループなどでの学習を取り入れて、道徳的価値のよさや難しさを確かめるような工夫をする。・その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習をする。・体験的行為などを通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようにする。
3年	<p>《身に付けさせる力》 道徳の時間においては、生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の体験やそれに伴う考え方や感じ方を基に自分なりの考えをもち、友達との話し合いを通して道徳的価値のよさや難しさを確かめるような問題解決的な学習を取り入れる。・ペアや少人数グループなどでの学習を取り入れて、道徳的価値のよさや難しさを確かめるような工夫をする。・その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習をする。・体験的行為などを通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようにする。

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
①褒める教育の推進	<p>ア 大谷中善行賞の取組 褒める教育の一環として、学期毎にクラス内で5部門(学習、清掃、係・委員会、給食、あいさつ)においてアンケートをとり、全校集会で表彰を行う(2学期は、体育祭、合唱祭の2部門が加わる)。</p> <p>イ 『友だちのよいところの発見』の取組 本校の道徳教育活動の一環として、クラス内で褒め合う機会を作り、自尊感情や自己存在感をもてるようにする。各クラスの取組で、されて嬉しかったことや陰で頑張っている生徒のこと等を小さい用紙に書き、発表し、教室内で掲示する。</p>
②道徳教育の推進	<p>本校は、道徳の授業において、全学級、話し合い活動を中心に行い、「考え・議論する」授業を実践している。また、授業形態(コの字型)の統一、共通ワークシートの利用等を通じて、生徒の道徳性を育成できるよう努めている。</p>
③新聞まとめの取組	<p>各クラスに新聞の朝刊を配布し、今日の出来事について一日毎に発表する生徒を決め、取り組んでいる。ねらいとして、世の中の出来事について新聞を通して知ると共に、そこから要点を押さえ、原稿用紙にまとめ、全員の前で発表する力をつけることとする。発表した原稿用紙は、クラスに掲示し、みんなが見る機会を作る。</p>
④大谷中PTG	<p>授業を受ける上での3要素を全校で取り組み、落ち着いて授業に取り組める態度を育成する。※P…Preparation(準備)、T…Time(時間)、G…Greeting(あいさつ)</p>
⑤無言清掃	<p>「自分達の環境は自分達できれいにする」観点から、清掃において無言で行うことで、自分が担当する場所に対し、責任をもって取り組ませることや小さいゴミ等に気づき、小さい事に気を払える気持ちを養う。</p>
⑥先手あいさつの取組	<p>「あいさつは自分から」の観点から、全校生徒が自らあいさつする力をつけさせる取組である。部活動や生徒会活動等、教育活動全体を挙げ、あいさつする大切さを教えること、先輩が率先して取り組むことで後輩の行動変容の育成を図る、本校の伝統の一つである。</p>
⑦家庭学習の取組	<p>「1日1頁」を目標に、基礎学力の定着と家庭学習の定着を図る目的に行っている(昨年度の学校評価の結果より)。また、eライブラリアドバンスを利用し、プリントを用意して取り組ませることや、各家庭のパソコンで取り組める体制を整備する。</p>
家庭教育との連携	
①小中連携(5校合同)による家庭学習の取組の統一	<p>家庭学習の取り組み方を大谷地区5校(今泉小、大谷小、鴨川小、南中、大谷中)で共通理解を図り、各家庭にリーフレットを配布し、啓発する取組を行っている。そのリーフレットには、各教育段階での目安の家庭学習時間や方法を示している。また、夏季休業を利用し、5校合同研修を図り、教員同士で検証を行っている。</p>
②進路講演会、ふれあい講演会等の実施	<p>家庭内で進路や養育について悩まれる方達等を対象に、積極的に学校行事への参加を促し、家庭教育の一助とする取組をしている。</p>
③毎学期1回の全校授業参観の実施	<p>授業参観の機会をつくり、積極的に学校教育の取組をアピールし、また、担任との個別の面談に備えることもしている。</p>
④家庭訪問・三者面談の実施	<p>夏季休業中、11月頃(全校三者面談)に機会を作り、学校と家庭との情報共有を図っている。また随時、担任は、家庭と連絡を密にとり、連携強化を図っている。</p>

○特別支援学級

《身に付けさせる力》

- ・ 自立と社会参加に向けて、必要となる知識や技能の習得、望ましい生活習慣を身に付ける
- ・ 日常生活や社会生活に必要な、社会性やコミュニケーション能力の向上
- ・ 心身の健康、情緒の安定、体力の向上

《具体的な取組》

- ・ 教科横断的な視点で、生活に根差した学習内容を設定する。
- ・ 行事や学校内外での取組などで、交流及び共同学習を充実させる。
- ・ 将来自立して生きていくために、キャリア教育を充実させ、働くことを意識させた指導を行う。
- ・ 体験的な活動やスポーツ活動、文化的な活動を多く取り入れ、生涯学習への意欲を高めさせる。

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
①褒める教育の推進	<p>ア 大谷中善行賞の取組 褒める教育の一環として、学期毎にクラス内で5部門（学習、清掃、係・委員会、給食、あいさつ）においてアンケートをとり、全校集会で表彰を行う（2学期は、体育祭、合唱祭の2部門が加わる）。</p> <p>イ 『友だちのよいところの発見』の取組 本校の道徳教育活動の一環として、クラス内で褒め合う機会を作り、自尊感情や自己存在感をもてるようにする。各クラスの取組で、されて嬉しかったことや陰で頑張っている生徒のこと等を小さい用紙に書き、発表し、教室内で掲示する。</p>
②道徳教育の推進	<p>本校は、道徳の授業において、全学級、話し合い活動を中心に行い、「考え・議論する授業」を実践している。また、授業形態（コの字型）の統一、共通ワークシートの利用等を通じて、生徒の道徳性を育成できるよう努めている。</p>
③新聞まとめの取組	<p>各クラスに新聞の朝刊を配布し、今日の出来事について一日毎に発表する生徒を決め、取り組んでいる。ねらいとして、世の中の出来事について新聞を通して知ると共に、そこから要点を押さえ、原稿用紙にまとめ、全員の前で発表する力をつけることとする。発表した原稿用紙は、クラスに掲示し、みんなが見る機会を作る。</p>
④大谷中授業前三原則	<p>授業を受ける上の心構えとして、三原則の取り組みを実践している。 ①授業準備 ②チャイム前着席 ③あいさつ</p>
⑤無言清掃	<p>「自分達の環境は自分達できれいにする」観点から、清掃において無言で行うことで、自分が担当する場所に対し、責任をもって取り組ませることや小さいゴミ等に気づき、小さい事に気を払える気持ちを養う。</p>
⑥ICT 推進	<p>授業において、Chromebook を活用し Google Classroom や Jamboard、スクールタクトを活用した協働的な学習に取り組んでいる。Google Forms での小テストも行い、反転学習の時間を取り入れている。 校務作業において、職員間連絡HP（校内ポータル）を作成し、ペーパーレスを推進している。共有ドライブでの共有機能を活用した会議資料の作成など業務効率化も進めている。</p>
家庭教育との連携	
①家庭学習の取組	<p>「1日1頁」を目標に、基礎学力の定着と家庭学習の定着を図る目的に行っている（昨年度の学校評価の結果より）。また、学びポケットを利用し、プリントを用意して取り組ませることや、各家庭のパソコンで取り組める体制を整備する。</p>
②進路講演会、ふれあい講演会等の実施	<p>家庭内で進路や養育について悩まれる方達等を対象に、積極的に学校行事への参加を促し、家庭教育の一助とする取組をしている。</p>
③每学期1回の全校授業参観の実施	<p>授業参観の機会をつくり、積極的に学校教育の取組をアピールし、また、担任との個別の面談に備えることもしている。</p>
④家庭訪問・三者面談の実施	<p>夏季休業中、11月頃（全校三者面談）に機会を作り、学校と家庭との情報共有を図っている。また随時、担任は、家庭と連絡を密にとり、連携強化を図っている。</p>